

鹿島郡上(部番名)の人で、十村領兵衛の三男であつた。越中の石黒藤右衛門信基の門に入つて、算學を習ふこと六年、安政七年關流算學免許書傳を受け、文久二年同心として二十俵を扶持せられ、七尾詰測算方・軍監所警固或は舊學所教師となり、廢藩の後は石川縣地理課に勤務し、明治廿七年享年五十九で歿した。著書に圓類解二卷がある。

**カヒトウハチロウ** 河合藤八郎 加州一向一揆の首魁で、永正三年越前に侵入し、七月十五日朝倉氏の軍と戦つて討死した。

**カヒトラハル** 河合虎春 河合虎春の名は、天正四年八月廿一日一揆首領速器で下間刑部卿法眼に宛てた訴狀に見える。虎春を宣久の子とするものがあるが、時代が稍隔離する。

**カヒヒナハル** 河合直治 通稱傳次。慶長元年越中守山に於いて前田利長に召出され、小々將として祿二百石を受け、九年父兵部の遺知四百石を嗣ぎ、前祿を除かれ、大坂再役に従ひ、二、丸東南崩下にて首一を獲、利常の小松隠棲に從ひ、慶安二年二百石を加へ、明暦二年五月歿。

**カヒノビサ** 河合宣久 越登賀三州志に據れば、もと攝州多田氏の族に出で、越前朝倉氏に仕へて多田五郎政晴といふたが、後能美郡河合村に來住して河合藤左衛門と改め、士民の爲に推されて一向一揆の頭領となり、後更に石川郡久安に移り住んだとある。大乗院寺社雜事記明應四年正月十八日の條に、『賀州一向宗長川合他界、俄死。』と見え、俄死の理由は明らかでないが、宣久の死期がこれでわかる。

**カヒヒヨウフ** 河合兵部 天正十年前田利家に召出され、四百石を領し、慶長十二年歿。子孫世々藩に仕へる。

**カヒフウイツ** 河合風逸 河北郡津幡の俳人。また風乙に作る。見風の子、見度の弟。通稱理右衛門。享和二年三月廿一日齡五十二で歿した。

**カヒブシリウ** 河合文龍 諱は龍、通稱卓次、字は季鳳、號は文龍。父は河合彌太夫。寛政元年に生まれ、四歳にして既に字を識り、始めて顔淵の二字を書いたといふ。三州良民言行録の序文は、十四歳の時作つた點に於いて推賞せられて居る。文化八年十月父の歿後幾くもなく病を發し、十一月二十三歳で歿した。

**カヒヒヤマ** 河合山 羽咋郡上河合・下河合の部落北方に在る山。高さ四三五米。地質輝石安山岩。

**カヒヒヨシハル** 河合長温 字は季恭、號は新齋。その教授の所を鹿鳴社といふた。初め醫を業として懇庵と稱したが、後儒士となつて通稱を方助といひ、加賀藩の老臣村井長道に臣事した。その著書に三州良民言行録二卷、力餘漫筆三卷がある。良温の子に萬があつた。萬は明治十四年に七十餘歳であつたといふ。

**カヒヒヨシモト** 河合佳柄 通稱左膳。寛保二年父惣九郎貞以の遺知三百石を襲ぎ、組外・大小將・御馬廻に列したが、天明五年十一月不届によつて五ヶ山流刑を命ぜられ、翌月出發した。子半兵衛祐吉も同刑に處せられたが、津幡驛に至つた時召還され、新知三百石を賜はつた。

**カヒヨソエモン** 河合興三右衛門 鹿島郡上(部番名)の人で、十村であつた。文化十一年藩布問屋と協力し、江州より職工を招き、或は藩より物資の貸付を受けて斯業の發展に全力を挙げたが、事意の如くならず、遂に責を負うて私財を償還に充て、爲に文政元年六月役儀を指除かれ、窮乏の裡に歿した。嗣胤兵衛文政七年八月再び十村役を命ぜられ、後御扶持人となり、孫瀬兵衛は祖父の志を受けて、元治以降縮布業を中興した。

**カヒロク** 河合録 五册。河合祐之著。弘化三年閏五月に初めて、四年四月に功を終へたと記されて居る。加賀藩の農制に就いて細大漏らさず書いたもので、能く練つた好資料である。

**カハブチイチノジョウ** 川縁市之丞 興兵衛の子。慶安三年御射手となり、承應元年新知百二十石外料三十石を受け、寛文七年月料二十石を加へ、元祿五年歿した。子孫四代宇左衛門久隆、亦御射手として百二十石を受けたが、安永九年閉門を命ぜられ、翌年閉門中病歿して家断絶した。

**カハミナミチヨウ** 河南町 金澤の舊町名。十二册御定書に載せた金澤通町筋町割付に、『葦町拾八間二尺川南町、二町三拾三間三尺片町』とある。この川南町は後に片町に屬し、その川大橋に近い方である。本町の一に數へられた。

**カハラゴウ** 河村郷 河北郡に屬し、藩政時代では、坂戸・越中坂・刈安・上野・河内・九折・原森・俱利伽羅の九ヶ村を含んだ。

**カハラシゲマサ** 河村重政 通稱三左衛門。初め石丸氏を討し、尾張侯松平光友に仕へ

たが、貞享元年福田筑前守の周旋によりて大將に召出され、六百石を領し、寶永中本姓河村に復し、享保十五年八月廿二日八十二歳を以て歿。子孫相繼いで藩に仕へる。

**カハラナリアキ** 河村成昭 通稱五右衛門。越前府中に於いて前田利家に仕へ、一たび浪人したが、また利長に屬して新知三百石、加増二百石を受け、御持簡頭に任じ、金の番取柴に選ばれた。寛永十四年八月歿。七代源五郎幼少で五百石の三、一を襲ぎ、寶曆元年早世断絶した。

**カハラモトマサ** 河村元正 通稱彌右衛門。濃州浪人、大坂陣に十六歳で神谷守孝の陣に從ひ、正保四年前田利常に召出されて二百五十石を領し、御馬廻に班し、寛文十年金澤で歿、七十五歳。子孫相繼いで藩に仕へる。

**カハヨケジヨウゴヤ** 川陰定小屋 犀川堤防の作事小屋で、藩政の時いつも建て置いたから世人之を定小屋と稱した。その四圍は土塀で、門戸を設けたものであつた。

**カハヨケマチ** 川陰町 ↓サイガハカハヨケマチ 犀川川陰町。アサノガハカハヨケマチ 淺野川川陰町。

**カハラダ** 河原田 東鑑建保六年十月廿七日に能登國大屋庄河原田、又永享元年の文書に大屋庄西保河原田とあるから、河原田が鳳至郡大屋庄内の一部落たることは明瞭である。しかし後世河原田郷はあるが、河原田村はない。

**カハラダガハ** 河原田川 ↓ワジマガハ 輪島川。

**カハラダゴウ** 河原田郷 鳳至郡に屬し、

# カハ